令和４年度（2022 年度）

自己点検・評価書
(学校評価報告書)

大阪教育大学附属特別支援学校

１　附属特別支援学校の現況

（１）　学校名

国立大学法人大阪教育大学附属特別支援学校

（２）　所在地

大阪市平野区喜連４－８－７１

（３）　学級数・収容定員

小学部（３学級；複式１５名）中学部（３学年１８名）高等部（３学年２３名）　計９学級５６名

（４）　幼児・児童・生徒数

５６名（男子３５名・女子２１名）

（５）　教職員数

・校長(併任)１人、副校長１人、主幹教諭１人、指導教諭１人、教諭24人(内、臨時的雇用3人、育児休業２人、非常勤講師４人)
・事務職員２人(専任１人、事務補佐員１人)　非常勤栄養士１人、労務補佐員１人
・学校カウンセラー２人（非常勤)、臨時用務員(委託調理師)５人

２　附属特別支援学校の特徴

・本校は、知的障害のある児童生徒を対象として、一人ひとりの障害や発達の状況に応じた適切な教育を行うことを目的とした学校である。
・１学年１クラス（小学部は２学年で複式学級）で構成するなどきめ細やかな指導を目指す特別支援学校である。
・平野地域には附属五校園（幼稚園・小・中学校・高等学校・特別支援学校）が連携を行い研究や交流を深めている。

３　附属特別支援学校の役割

（１）大阪教育大学の附属学校として特別支援教育の理論と実際に関する研究を行うこと。
（２）本学の教育実習機関として学生の教育実習、介護等体験実習、インターンシップ、教職大学院生などに対して適切な指導を行い、もって将来の教員養成を担うこと。
（３）教育全般に関する理論研究を行うと共に知的障害のある子どもの教育実践に役立てること。
（４）　特別支援教育のセンター的役割を担い「相談・支援センター」を拠点に地域に発信して行くこと。
（５）安全教育などについても取り組んでいくこと。

４　附属特別支援学校の学校教育目標

⑴教育方針
・一人ひとりの人格と能力を尊重し、集団的あるいは個別的指導を通じて発達の可能性をより豊かに実現させる。
⑵教育目標
・自立、社会参加に向けて一人ひとりの可能性を最大限に引き出す。
・キャリア教育の視点に立って卒業後の社会で生きる力を身につける。
⑶目指す子ども像
・明るく健康で意欲的な子ども
・仲間とともに活動に参加できる子ども
・自分で考え行動できると同時に、社会の一員としての自覚を持つ子ども

５　附属特別支援学校の学校教育計画

〇教育方針

・一人ひとりの人格と能力を尊重し、集団的あるいは個別的指導を通じて発達の可能性をより豊かに実現させる。

〇教育目標

・自立、社会参加に向けて、一人ひとりの可能性を最大限に引き出す。

・キャリア教育の視点に立って、卒業後の社会で生きる力を身につける。

〇重点目標（令和４年度）

（1）本校の児童生徒に対する質の高い教育実践の取り組みと安心・安全な学校づくりを行う。

1）児童生徒の実態把握と「個別の教育支援計画」「個別の指導計画」の充実を図る取り組み

2）コロナ禍における感染防止対策の**継続**と安全・安心な学校経営

3）「ギガスクール構想」の推進と ICT 機器を活用した授業実践と教材・教具の開発

4）小・中・高等部の連携強化と教育課程編成の工夫におけるキャリア・マトリックスの運用

（2）大学との連携による教員の専門性向上を図り、先導的な研究開発の取り組みを行う。

1）学校園教員のための特別支援教育講座「エクステンション研修」の企画

2）**大学教員との共同研究の促進**

3）**本校全体研究への本学教員との連携の促進**

4）教員養成に向けた介護等体験実習・教育実習・インターンシップ及び教職大学院生への学校実習への支援に向けた大学との連携の促進

（3）特別支援学校のセンター的機能の発揮と地域連携の取り組みを行う。

1）附属特別支援学校相談・支援センターの機能強化・発信の促進

2）大阪府立支援学校及び教育委員会との研修等における連携の促進

3）平野地区附属五校園との連携型教育実践の促進

4）平野地域学校園の連携の促進

（4）キャリア教育の促進及び自立と社会参加に向けた生きる力を育成する取り組みを行う。

1）**高等部における大学・他機関と連携したキャリア教育の促進**

2）小・中・高等部一貫した教育課程とキャリア・マトリックスの運用における工夫

3）将来の自立と社会参加に向けた社会性の醸成や生きる力を育てる教育の促進

（5）学校組織マネジメントと学校の活性化の取り組みを行う。

1）管理職を中心に組織マネジメントに関する普段からの点検と機能強化

2）各学部・分掌・委員会等学校組織の安定的運営と普段の点検活動による活性化の促進

3）個人が組織人としての役割を明確にした役割の促進

4）「教職員の働き改革」に関する事項についての点検と促進

（6）情報の発信と保護者・卒業生等の連携の促進を行う。

1）学校ホームページの定期的更新と学校の教育活動における情報発信の促進

2）保護者・PTA 役員会・教育後援会との連携の促進

3）卒業生・芙蓉会との連携の促進

4）防災等の取り組みを含む地域連携の促進

6　附属特別支援学校の令和４年度　重点目標(評価項目)，具体的な取組内容(評価指標)・評価結果

評価の基準

自己評価		学校関係者評価	
A	高いレベルで達成できた	A	とても適切である
B	達成できた	B	おおむね適切である
C	一部達成できなかった	C	あまり適切でない
D	ほとんど達成できなかった	D	適切でない
		E	判定できない

学校教育目標	一人ひとりの人格と人権を尊重し、個別的・集団的指導を通じて、次に掲げる具体目標の達成に努め、発達の可能性をより豊かに実現させる。 ○　明るく健康で意欲的な子ども ○　仲間とともに活動に参加できる子ども ○　自分で考え行動できると同時に、社会の一員としての自覚を持つ子ども
学校教育計画	**１．本校の児童生徒に対する質の高い教育実践の取り組みと安心・安全な学校づくりを行う**

本年度の重点目標 (評価項目)	具体的な取組内容 (評価指標)	自己点検評価			学校関係者評価		学校関係者評価を踏まえた改善策
		達成状況	改善点	評価	意見・理由	評価	
(1) 児童生徒の実態把握と「個別の教育支援計画」「個別の指導計画」の充実を図る取り組み	①児童生徒の実態把握に関するアセスメント技能の習得に向けた教員の力量強化を図る。	・児童生徒のアセスメントに関して保護者と連携を取りながら個別の教育支援計画、各種検査項目等の内容の充実を図った。	・学部横断的に個々のアセスメントの基準を明確にし、保護者と共有できるようにする。	A	・保護者への聞き取り、本人の状態を把握して作成し、実践していると感じる。	A	・今後も引き続き項目、内容について追記、見直しを行っていく必要がある。
	②教育指導の効果性と個別の指導計画の作成・活用を図る。	・個別の指導計画の充実を図り、学部で共有することで学校行事や授業に活かすことができた。	・キャリアマトリクスを活用し、小中高と継続した指導計画の運用を行った。	A	・表記なし	A	・定期的、または必要時には全学部で共有することが必要である。
(2) コロナ禍における感染防止対策の継続と安全・安心な学校経営	・教員一人ひとりが高い感染対策意識を持ち、大学・保健所等と連携して安全・安心な学校経営を行う。	・平野区保健福祉センター、大学保健センターと連携し、感染予防対策を行った。	・特別支援学校のみ濃厚接触者の追跡があるため、感染者が出た時の対応に時間がかかる。	A	・感染拡大時期にも学校閉鎖等にならなかったのは努力の結果だと思う。	A	・今後コロナウイルス感染症が５類に移行したときの対応の準備が必要。

(3) 「ギガスクール構想」の推進と ICT 機器を活用した授業実践と教材・教具の開発	①ICT 機器の活用とユニバーサルデザインの教育への応用を図る。	・タブレット端末（クロムブック）を使ったオンライン授業等の活用の幅が広がった。	・クラスルームの活用が定着してきたが、より ICT 機器の活用の拡大が必要である。	A	・参観・文化祭等で ICT の活用がされていたが、音声は改善の余地あり。	B	・よりクロムブックの活用方法及び、アプリの充実が望まれる。
	②タブレット端末機器及び電子黒板等の活用と教材・教具の開発に向けた実践を図る。	・デジタル連絡帳を使用してスムーズに保護者と連絡がとれるよう努めた。	・デジタル連絡帳について保護者への説明を今後も継続して行い、活用を図る。	A	・本人に合ったタブレット教材で行われている。	A	・保護者への説明について今後も必要時には継続して行う。
(4) 小・中・高等部の連携強化と教育課程編成の工夫におけるキャリア・マトリックスの運用	①学部を超えた教員間の連携の促進と教育課程の工夫を図る。	・教員の学部間交流を行うことで、お互いの学部理解を深めることができた。	・積極的な学部間交流というところまではできなかった。	B	・子どもの成長にとって縦横のつながりは非常に有効。	A	・コロナ感染状況を見極めて交流を充実させていく必要がある。
	②キャリア・マトリックスの運用を図り、個別の指導計画との関連付けを検討する。	・キャリア・マトリックスの充実を図りながら個別の指導計画に反映することができた。	・各学部でより具体的な取り組みの共有化を図り、実践を積み重ねていく必要がある。	A	・個別の指導計画を熱心に取り組まれているが、キャリア・マトリックス運用に関してはわからない。	A	・指導計画についてより保護者と共有しやすい内容を工夫する。

学校教育目標	一人ひとりの人格と人権を尊重し、個別的・集団的指導を通じて、次に掲げる具体目標の達成に努め、発達の可能性をより豊かに実現させる。 ○　明るく健康で意欲的な子ども ○　仲間とともに活動に参加できる子ども ○　自分で考え行動できると同時に、社会の一員としての自覚を持つ子ども
学校教育計画	**２．大学との連携による教員の専門性向上を図り、先導的な研究開発の取り組みを行う。**

本年度の重点目標 （評価項目）	具体的な取組内容 （評価指標）	自己点検評価			学校関係者評価		学校関係者評価を踏まえた改善策
		達成状況	改善点	評価	意見・理由	評価	
(1) 学校園教員のための特別支援教育講座「エクステンション研修」の企画	・教育講座を行い、受講者に対して特別支援教育の理解・啓発を図る。	・本校教員を含めた受講者が様々な分野の講義を受け、知識を深めることができた。	・本研修の周知の仕方について工夫し見直す必要がある。	A	・ホームページを見たが、受講していないのでわからない。	B	・より周知と内容の充実が必要
(2) 大学教員との共同研究の促進	・大学教員と普段からの連携を促進にして共同研究の充実を図り研究成果を研究紀要に収録する。	・大学教員と共同研究を行い、また令和５年度の研究紀要に収録することができた。	・研究ユニットが増えたことでより多くの大学教員と連携し、研究することができた。	A	・表記なし	B	・大学教員の研究に本校教員が参加する形を取り入れる等、連携の幅を広げていく必要がある。
(3) 本校全体研究への本学教員との連携の促進	・本学特別支援教育部門の教員との連携を促進し、本校教員の研究の資質を高める。	・ユニット研究、学部研究、平野五校園共同研究において大学教員と連携し、研究を進めることができた。	・3つの関連研究を通して、大学教員や附属平野五校園との連携を深めることができた。	A	・表記なし	B	・より大学教員・附属平野五校園との連携の強化が求められる。
(4) 今後の教員養成に向けた学生の介護等体験実習・教育実習・インターンシップ及び教職大学院生への学校実習への支援に向けた大学との連携の促進	①指導教諭を核として教育実習生等の受け入れに関する協議を継続的に行い、スムーズな運営にあたる。 ②今後の特別支援教育を目指す学生の障害理解のために啓発リーフレットを配布するなどの工夫を図る。	①実習前に大学実習担当及び部門担当教員とで受け入れ人数、実習生の実態把握等を協議しスムーズに実習を行うことができた。 ②学生には特別支援教育の理解・啓発に向けて「リーフレット」を作成して配布した。	・学生の配慮事項や指導に関して大学と一層の共通理解をより深め、事前面接でしっかりと聞き取りを行う必要がある。	A	①教育実習の受け入れや、学生の支援をしっかりと行われているのが実習生の様子を見ると努力していると感じる。 ②リーフレット配付については知らなかった。	A	・大学特別支援教育部門の実習担当教員とは十分に連携がとれていると思うが、大学免許実習係との連携を更に深めていく必要がある。また各学部において実習の評価基準が一定になるよう工夫することが必要。

学校教育目標	一人ひとりの人格と人権を尊重し、個別的・集団的指導を通じて、次に掲げる具体目標の達成に努め、発達の可能性をより豊かに実現させる。 ○　明るく健康で意欲的な子ども ○　仲間とともに活動に参加できる子ども ○　自分で考え行動できると同時に、社会の一員としての自覚を持つ子ども
学校教育計画	**３．特別支援学校のセンター的機能の発揮と地域連携の取り組みを行う．**

本年度の重点目標 （評価項目）	具体的な取組内容 （評価指標）	自己点検評価			学校関係者評価		学校関係者評価を 踏まえた改善策
		達成状況	改善点	評価	意見・理由	評価	
(1)附属特別支援学校「相談・支援センター」の機能強化・発信の促進	・特別支援学校のセンター的機能発揮のために支援アドバイザーを配置するなどして機能強化を図り、附属 11 校園の支援を展開する。	・相談支援アドバイザーの瀧本一夫先生に助言をいただく等、センターの機能強化とコーディネーターの専門性の向上を図った。	・本校だけでなく１１校園コーディネーターのさらなる専門性の向上が求められる。	A	・ホームページでの情報しか分からないが、いろいろな取り組みをしていると思う。	B	・更なる専門能力をアップさせることで機能強化を図る。
(2)大阪府立支援学校及び教育委員会との研修等における連携の促進	・教育委員会・府立支援学校と連携を図り、研修・講座のニーズに応えられるよう実践を模索する。	・大阪府教育庁支援教育課や大阪市教育委員会インクルーシブ教育推進室と連携し、研修の充実を図った。	・更に教育委員会との連携を深めるために定期訪問や連絡会を行う必要がある。	B	・表記なし	A	・より研修内容の充実、見直しが必要。
(3)平野地区附属五校園との連携型教育実践の促進	・附属平野地域の共同研究協議会を通して研究促進を図り、引き続き連携型教育実践の促進に寄与する。	・「探求学習」をテーマに平野五校園共同研究を行い、発表会で発信することができた。	・五校園での連携型教育実践の促進という点においてはコロナ禍で交流等も少なくなっている。	B	・表記なし	B	・五校園においても特支の特色を活かした研究を行う。またそれ以外の連携を模索していく必要がある。

学校教育目標	一人ひとりの人格と人権を尊重し、個別的・集団的指導を通じて、次に掲げる具体目標の達成に努め、発達の可能性をより豊かに実現させる。 ○　明るく健康で意欲的な子ども ○　仲間とともに活動に参加できる子ども ○　自分で考え行動できると同時に、社会の一員としての自覚を持つ子ども
学校教育計画	**４．キャリア教育の促進及び自立と社会参加に向けた生きる力を育成する取り組みを行う**

本年度の重点目標 （評価項目）	具体的な取組内容 （評価指標）	自己点検評価			学校関係者評価		学校関係者評価を 踏まえた改善策
		達成状況	改善点	評価	意見・理由	評価	
(1)高等部における大学・他機関と連携したキャリア教育の促進	①障害者リハビリセンター及び障害者就業・支援センター等と連携を図り、卒業後の自立に向けたキャリア教育を推進する。	①関係諸機関と連絡を密にして、本人・保護者に適切な情報提供や相談ができるように努めた。	・進路選択や自立に向けて引き続き関係諸機関と連携を図っていく必要がある。	A	・高等部卒業後の生活支援として、余暇の過ごし方、生活の楽しみ等、豊かな日常の支援を期待している。	B	・卒業に向けた関係機関との引継ぎや支援を更に強化していく必要がある。
	②各学部キャリアライフステージにおける自立支援のマトリクス表を活用して実践をする。	②キャリアマトリクスの充実を図ることでキャリア教育の実践を行うことができた。	・次年度に向けてさらに運用の在り方や改定に向けて実践を深める必要がある。	A	・表記なし	B	・各キャリアライフステージに沿ったキャリア教育の実践が必要。
(2)小・中・高等部一貫した教育課程とキャリアマトリクスの運用における工夫	・各学部でキャリアマトリクス表を活用して実践の検証を行う。	・教育課程検討委員会を中心にキャリアマトリクスを作成し、授業や行事等で実践することができた。	・今後もキャリアマトリクスの改訂版を検証する必要がある。	A	・表記なし	B	・より学部間連携をしっかりと行っていく。
(3)将来の自立と社会参加に向けた社会性の醸成や生きる力を育てる教育の促進	・SST(ソーシャルスキルトレーニング)の効果的な活用やその応用に向けた教育課程上の検討と実践を図る。	・SST の実践的取り組みとして各学部において自立活動や体験学習等の教育課程を意図して実践できた。	・引き続き各学部でより具体的な取り組みの共有化を図り、実践を積み重ねていく必要がある。	A	・職場見学や一日体験を実施する特例子会社が増えてきている。	B	・一人ひとりに合わせた自立と社会参加に向けた取り組みが必要。

学校教育目標	一人ひとりの人格と人権を尊重し、個別的・集団的指導を通じて、次に掲げる具体目標の達成に努め、発達の可能性をより豊かに実現させる。 ○　明るく健康で意欲的な子ども ○　仲間とともに活動に参加できる子ども ○　自分で考え行動できると同時に、社会の一員としての自覚を持つ子ども
学校教育計画	**５．学校組織マネジメントと学校の活性化の取り組みを行う**

本年度の重点目標 （評価項目）	具体的な取組内容 （評価指標）	自己点検評価			学校関係者評価		学校関係者評価を 踏まえた改善策
		達成状況	改善点	評価	意見・理由	評価	
(1) 管理職を中心に組織マネジメントに関する普段からの点検と機能強化	・職員会議、学部会、分掌部会などにおける内容の精選と時間短縮を図り、「教育における働き方改革」に寄与する。	・各会議について内容の精選及び、終了時間を決めることで効率よく実施することができた。	・今後も継続して「教員の働き改革」の視点を持って改善策を講ずる必要がある。	A	・職員会議、学部会等、熱心であることは伝わるが、時間短縮が図られているかは疑問。	B	・定時退勤が求められる来年度に向けてより内容の精査が必要。
(2) 各学部・分掌・委員会等学校組織の安定的運営と普段の点検活動による活性化の促進	・学部・分掌・委員会等の組織点検を図るために普段の業務の内容を精査する。	・業務内容の精査を図ることで、それぞれの課題を把握することができた。	・教員が学校経営に参画できる意識を持てるようにすることが必要である。	A	・表記なし	E	・更なる組織内の役割分担の精査と教員の意識の向上が必要。
(3)個人が組織人としての役割を明確にした個々の役割の促進	①一人ひとりが学校運営に参画する意識を持てるように校務分掌や委員会活動の取り組める環境を作る。 ②教育公務員としての法令遵守・規律と人権感覚を醸成した意識を涵養する。	①一人ひとりが学部や校務分掌等で役割を意識し、教育や研究に取り組めるよう努めた。 ②職員集会等で必要な際に情報提供を行い人権感覚における醸成意識を促した。	①学部間での連携を図れるように普段からコミュニケーションや情報共有が行なえる環境を整える必要がある。 ②少ない教職員集団なので教員の同僚性を発揮できるよう個人の意識改革が必要である。	B	①みなさんそれぞれ熱意をもっているのを感じる。 ②教育公務員として法令遵守は意識されていると思う。	E	・更なる学部間での交流や情報共有が必要。
(4)「教職員の働き改革」に関する事項についての点検と促進	・労働安全衛生委員会を中心に年間３回点検活動を行う。	・定期的に働き方についてのアンケートを実施し、共有することができた。	・退勤時間や仕事内容の精選を図る必要がある。	A	・働き方改革という言葉はよく耳にしているが、実際どのような努力をしているかは見えない。	E	・定時退勤が求められる来年度に向け、退勤時間や仕事内容の精選を図り、共有していく。

学校教育目標	一人ひとりの人格と人権を尊重し、個別的・集団的指導を通じて、次に掲げる具体目標の達成に努め、発達の可能性をより豊かに実現させる。 ○　明るく健康で意欲的な子ども ○　仲間とともに活動に参加できる子ども ○　自分で考え行動できると同時に、社会の一員としての自覚を持つ子ども
学校教育計画	**６．情報の発信と保護者・卒業生等の連携の促進を行う**

本年度の重点目標 （評価項目）	具体的な取組内容 （評価指標）	自己点検評価			学校関係者評価		学校関係者評価を 踏まえた改善策
		達成状況	改善点	評価	意見・理由	評価	
(1) 学校 HP（ホームページ）の定期的更新と学校の教育活動における情報発信の促進	・学校 HP の定期的な更新や各行事及び各部の活動を定期的に発信する。	・ICT アドバイザーを招聘し、ホームページの刷新を行った。 ・学校だよりを毎月アップする等、学校の様子を伝えることができた。学部ごとに活動内容を紹介した。	・保護者への発信については引き続き ICT アドバイザーのサポートのもと、より充実したものにしていく必要がある。	A	・頻繁にホームページの更新がされているので、学校の様子がよくわかる。	A	・よりＨＰの充実を図っていく。
(2) 保護者･PTA 役員会との連携の促進	・PTA 活動における学校との調整を図り各学部での取り組みに関して保護者との連携の促進を図る。	・定期的に代表者委員会を実施し、PTA 活動について協議することができた。 ・指名委員会を選出し、新役員候補を選出した。	・役員・保護者がより活動しやすい環境にするため、更なる PTA 活動の内容の精査が必要である。	A	・PTA 活動において学校と連携がとれている。	A	・代表者委員会を主として保護者間連携と教員連携をさらに深めていくことが必要。
(3) 卒業生・芙蓉会等の後援会組織との連携の促進	・担当者を中心に芙蓉会の行事調整や参加を行う。	・新型コロナ事情により青年学級、運動会、成人式等の卒業生の参加を禁止せざるをえなかった。	・卒業生が参加する行事内容の精査が必要である。	C	・コロナ対策が緩和されていく中、学校と卒業生とのつながりと支援を期待している。後援会とは連携が行われている。	A	・コロナの終息を見極めながら再開できるところから進めていく。
(4)防災等の取り組みを含む地域連携の促進	・防災・防犯などの取り組みに関する地域との情報共有を図る。	・平野消防署、平野区役所の協力の元、全校児童生徒対象に防災学習を実施した。	・今年度の防災学習を継続して実施し、地域との連携においても考えていく必要がある。	A	・今年度の防災学習は大変素晴らしいものだった。	B	・今後、地域との連携を強化した防災学習を展開していく必要がある。